

台北市における社区大学の実態

—士林社区大学からみる「公民社会」形成のアプローチ方法—

生涯学習基盤経営コース 山口香苗

The real of community colleges in Taipei :
Approach method of forming "civil society" by Shilin community college

Kanae YAMAGUCHI

The purpose of this study is to analyze how approach the community colleges establish idea "form civil society", through clarify the character and issues of Shilin community college. The original idea of community college in Taiwan is based on academic curriculum and organization curriculum, through this two curriculums, heighten people's ability of deal with public affairs problems. However, this study clarifies Shilin community college attaches importance to life artistic skill curriculum, first satisfy people's interest and desire for learning, after that, connects personal learning with in community learning. For the sake of to make connect, conduct people in community, and widening people's vision.

目次

1. はじめに
 - A. 研究の目的と背景
 - B. 問題の所存と方法
2. 士林社区大学の概要
 - A. 士林区の概要
 - B. 運営団体と教学理念
 - C. 行政組織と各委員会の機能
 - D. 収入と支出
3. 学習者・教員と開講講座の特徴
 - A. 学習者と教師の概要
 - B. 講座の計画方法と「学群」の設定
 - C. 社団の成立と奨励
4. 講座から社区活動への発展へ
 - A. 士林区の特徴を生かした講座から「士林学」の成立へ
 - B. 社区組織との連携による活動
 - C. 公共的な課題への関心向上のためのとりくみ
5. おわりに
 - A. 士林社区大学の特徴と課題
 - B. 士林社区大学の公民社会形成へのアプローチ方法

1. はじめに

A. 研究の目的と背景

本稿は、台北市にある士林社区大学¹⁾を例に、台北市社区大学の特色と課題を明らかにすることを通して、現在その設置理念である「公民社会」の形成²⁾にどのようにアプローチしているのか分析することを目的とする。

台湾は1945年の「光復（本土回復の意）」後、2・28事件の勃発と白色テロの時代を経て、1960年代から経済発展の時代に入り、1987年に38年間にわたる戒厳令が解除され民主化の時代を迎えた。戒厳令解除後の10年間は社会運動の時代と言われ、労働者、女性、原住民族³⁾などの権利保障や環境問題の解決などを訴える数々の運動が沸き起こった。そうしたなか、1994年4月10日、政府に教育体制の改革を求める大規模な教育改革運動（以下、410教育改革運動）が起こり、これをきっかけに社区大学は誕生した。410教育改革運動の指導者は、当時台湾大学の教授であった黄武雄であり、彼こそが社区大学の提唱者である。410教育改革運動において、教育改革を通して社会改革を成し遂げようとする黄と、黄の思想を支持する大学教授ら民間の知識人たちは、当時エリート層にしか与えられてこなかった高等教育を一般民衆に解放し、そして知識の解放によって民衆の批判的思考能力を高

め、公共政策に関与できるような力をつけること、これによって公民社会を実現することを目指した⁴⁾。そして、その学習拠点として、社区大学の設置を提唱した。つまり、民主化後の社会において、自らの手で自らの生活と社会を形成し、今後の民主社会を担っていくことのできる市民の育成を社区大学にて行うことを提唱したのである。そして、当時の民進党勢力の躍進という政治的背景も後押しし、1998年9月、台湾で初となる文山社区大学が台北市文山区に成立した。

また、教育界における成人教育と生涯学習の提唱も、社区大学の発展を後押しした。台湾では1980年代から成人教育と生涯学習の重要性が叫ばれるようになり、1998年、教育部は白書「学習社会に向けて」を提出し、生涯学習を中核にした社会形成を行うことを明言した。社区大学はこうした風潮の中で、成人に学習の場を提供する施設としての役割を果たすことが期待された。このように、410教育改革運動をきっかけに、民進党勢力の躍進と生涯学習の提唱という2つの流れを背景に社区大学は全土に普及し、現在83ヶ所存在している⁵⁾。

B. 問題の所存と方法

黄の思想をもとに、「知識の解放と公民社会の実現」を理念とする社区大学は、その講座を学術課程、社団活動課程、生活芸能課程⁶⁾の3つに分けており、生活芸能課程で生活を充実させる芸能の習得も行うが、重点は、学術課程において民衆が学術理論的な知識を学び、社会構造を客観的に見ることができるよう批判的思考能力を育て、社団活動課程において民衆が公共政策に影響を与えるような学習活動、学習運動をくり広げていくことにあった。しかし、実際に社区大学を開始すると、ダンスや歌、絵画など、学習者の趣味を学べる生活芸能課程の需要が大きく、数多くの生活芸能課程の講座が開講していくようになった。この現状に対して、多くの研究者らは、「公民社会の実現」にはほど遠い状態にあると批判してきた⁷⁾。

しかし、今まで、理念とは異なったこうした現状をどのように見るのか、生活芸能課程の講座から理念の実現に向かうことは不可能なのかどうかということについては問われておらず、あるべき姿としての「公民社会」像を押し付け、この理想像に合っていない場合、理念との乖離として批判してきたといえる。生活芸能課程の講座に楽しそうに通う学習者の姿、講座を通して新たな人間関係を築いている学習者の姿は、本当に「公民社会」とはほど遠いものと言い切ってしまう

てよいのであろうか、ここに理想像とは異なる「公民社会」へと通じる道が存在するのではないのだろうか、などの疑問が生じるのである。よって、本稿では、ケーススタディーによって、実際の社区大学で行われている学習活動の実態を分析し、「公民社会」形成にどのようにアプローチしているのか考察したい。

特に本稿では、台北市にある士林社区大学に焦点を当てる。士林社区大学は成立以降、数多くの生活芸能課程の講座を開講し、講座に参加している学習者が社団をつくるなど、いわば生涯学習機構としての性質を強くもち運営してきたといえる。この性質は、現在多くの社区大学の典型であるといえ、士林社区大学の実態は、台湾全土にある多くの社区大学を代表できるものと思われる。

なお、本稿で使用した資料は、士林社区大学が毎年作成している事業報告書である『自評報告』の2010年度から2014年度の5年間分、台北市学習都市ウェブサイト (<http://www.lct.tp.edu.tw/bin/home.php>) で発行されている電子報の文書資料と、士林社区大学副校長(主任秘書)への聞き取り調査(2015年4月24日、6月23日、8月11日実施)である。

2. 士林社区大学の概要

A. 士林区の概要

士林区は台北市の北部に位置し、面積約64万立方キロメートルを有する、台北市12行政区のなかで最大の区である。区の下部行政組織である里は51存在し⁸⁾、人口は12行政区の中で2番目に多い約29万人(2015年5月現在)である。士林区は生活圏を、陽明山、天母、蘭雅、芝山岩、中央、後港、社子の7つに分けることができる。士林区の北側に位置する陽明山生活圏には、大屯山、七星山、紗帽山などの火山や国の自然保護区である陽明山国家公園などがあり、観光レジャースポットとなっている。天母生活圏は、アメリカ軍の宿舎や病院、アメリカンスクール、各国の駐台事務所、日本人学校などが林立する異国情緒あふれる地区である。芝山岩生活圏には、数々の古蹟や、日本植民地時代に日本語教育を開始した拠点としても知られる芝山岩など、多くの遺跡が存在するほか、士林区の主要な溪流と言われる雙溪と磺溪が流れている。また、後港と社子生活圏には工場が立ち並んでおり、特に社子は淡水河と基隆河が交わる中洲であることから社子島ともよばれ、洪水の危険性から開発が禁止されてきたため都市整備が遅れている地区である。その他、区内に

は台湾で最も有名な士林夜市や故宮博物院など多くの観光客が訪れるスポットや、台北市立天文科学教育館、国立台湾科学教育館などの教育施設があるなど、歴史、自然、文化、科学などの教育資源を多く有している区である。

B. 運営団体と教学理念

台北市社区大学は公設民営によって運営されており、運営委託団体は公開入札によって決定している⁹⁾。士林社区大学は、1999年9月1日に台北市第2番目の社区大学として成立し、成立当初から現在までの16年間「財団法人崇徳文教基金会」によって委託運営されており、場所は台北市立百齡高等学校内を学習拠点としている。この基金会は、「中華传统文化の発揚と儒家の倫理道德思想の生活化」を目指す一貫道という思想をもとにした宗教団体を母体に、1986年に成立したものである。基金会は、士林社区大学の運営のほかにも、社区親子読経教育、学生への奨学金の提供、青少年のサマーキャンプの実施や更生保護事業、大学生や専門学校生へのボランティア教育、合唱団の成立など様々な教育文化事業に取り組んでいる¹⁰⁾。

1999年の開校期、「卓越性の追求、彩りある人生」を教学理念に運営を開始し、士林社区大学が住民の学習の先頭に立ち、個人学習から社区学習へと学習を発展させ、住民の公民としての質¹¹⁾を向上していくことを目標にすえた。運営開始から10年を超えた現在、教学理念を「卓越性の追求、優質な士林、国際的な公民社会」と定め、社区住民の生涯学習の牽引者となること、読書環境づくりの促進者となること、公民社会を作るための政府政策の宣伝者となること、社区意識を育て公民を育てる実践者となること、社区総体营造¹²⁾の拠点となること、人生を豊かにするための「給油所」になることを目標として掲げている。そして、教学計画として、「社区資源を掘り起こし、社区に根ざした行動をとり、公民参加を促進する」、「グローバルな思考をし、文化の基礎をつくり、人文的素養と文化交流を促進する」、「生態環境を守り、美しい水環境の芝蘭（士林の旧称）にし、環境に優しい生活圏をつくる」の3つをおき、これらを柱に講座の設計や活動の計画を行っている。

C. 行政組織と各委員会の機能

士林社区大学の行政組織は図1のようである。

校務の最高決定権は校務会議にあり、ここで校務の方針が決定される。校務会議は年に1度開かれ、メン

バーは士林社区大学の行政職員、教師、学習者から学校内部の人員に加え、学内人員が全体の3分の1以上を満たしていることを条件に、社区代表、学外の専門家らを数名召集する。社区大学行政組織のトップに位置づく校長は、士林社区大学を運営する崇徳文教基金会の理事長である。校務顧問は学外からの教育専門家を招くことになっており、現在は士林社区大学がおかれている百齡高等学校の校長が務めている。主任秘書は副校長を兼任し、社区大学の事務管理、会議の召集などすべての実務の総合管理を行っている¹³⁾。



図1 士林社区大学の行政組織図

注) 士林社区大学の提供による。

1. 行政系統

行政系統は課務組、学務組、総務組、社区服務組の4つの組と、学内外の活動やイベント開催の際に行政支援などを行う学習者からなる校務ボランティア社がある。士林社区大学の職員は、4つの組の行政職員と校長、主任秘書を含め現在13名おり、専任9人、兼任4人である。

課務組は、主に講座の開講や教師との連絡など教務に関わることを担当し、学務組は学習者の情報管理や申し込み手続きなどに関わることを担当している。総務組は、会計、出納、環境整備を担当し、総務組長と2人の助手が業務を分担して行っている。社区服務組には社区執行秘書がおり、社区と連携した講座や活動の計画と、「社区学習服務センター」¹⁴⁾の管理を行っている。総務組の助手2人は社区服務組のサポートも行っている。その他、各組すべてのサポートを行う助手専員（専任）と行政助手（兼任）、出版物やパンフレット作成などを担当する美術編集（兼任）、パソコン情報管理を担当する情報専員2人（兼任）がいる。行政職員は公募により採用され、勤務時間は午後1時半から10時までである。これら、行政職員の採用や勤務規定などに関しては、士林社区大学が独自に「行政人員招聘辦法」、「本校行政管理手冊」などを規定して

いる。職員は年に数回、基礎訓練、知能研修、社区大学の専門性の育成に関わる研修を受けることになっており、例えば社区大学内で、文書作成や会計手続きなどの行政事務研修や、パソコンスキル向上のための研修会、その他、教育局やその他社区大学が行う会議や説明会に参加したりしている。加えて、社区大学内で開催する教師を対象にした各研修会にも参加し、行政事務能力の向上と教学の質の向上のための知識を習得している。

2. 教学系統

教学系統に属する各委員会は、「課程計画および教師招聘審査委員会（以下、課程・招聘委員会）」、「教学研究発展委員会」、「校務発展委員会」の3種類がある。「課程・招聘委員会」は講座の計画や審査、教師の採用審査などをおこなう組織であり、年2回会議が行われる。メンバーは大学の研究者や専門家から1～3人、教師から3人、学習者から3人、社区から1～2人、行政職員から3人を集め、10名以上で組織される。「教学研究発展委員会」は教学の質の向上など、教学に関わる会議を行う組織であり、年2回開催される。士林社区大学ではすべての講座は「5学群」（3.Bにて後述）に分かれており、この会議のメンバーは各学群から教師1人を代表とした計5人からなる。「校務発展委員会」は、現在士林社区大学では年に1度、「士林社区教育推進会議」が開かれており、この会議を「校務発展委員会」の会議に代えている。「士林社区教育推進会議」とは、社区学習サービスセンターに属する会議、つまり、社区大学の内部業務に関わる会議ではなく、社区全体の事業に関わる会議であるが、社区大学は社区と連携して行う講座や活動が多いため、この会議を士林社区大学の校務発展会議としている。メンバーは、社区大学の校長に加え、水利会、里長（現在は福佳里）、文教基金会（社子文教基金会など）、区役所など、社区組織から人員を召集し、現在は13人で構成されている。社区大学が社区の要求と課題に即した講座や活動に取り組めるよう、社区から召集した人々からなる会議の意見が社区大学の行政組織内部に入るようなしくみを採っているのである。その他、毎月1回、行政職員のみで行う「校内行政会議」、新学期開講第1週目にすべての教師を集めて行う「教学研討会」（年2回）、開講第2週目にクラス代表を集めて開く「クラス幹部座談会」（年2回）などがある。社区大学の各クラスにはクラス代表がおり、学期開始の第1週目の講座で決定

することになっている。クラス代表はクラスの学習者へ学校からの情報を伝えることに加え、学習者と教師、学校間の交流を取り持ち、積極的に校内活動や社区活動に参加することが期待されている。彼らの数名は校務会議に出席し、校務に関わる討論、決議に参加することになっており、学習者の代表として意見を学校側に届ける役割も果たしている。

現在、このような行政組織と委員会によって、士林社区大学は運営されている。

D. 収入と支出

士林社区大学の2013年度の収入（表1）と支出内訳（表2）は以下の通りである。

収入源の大半を占めるのは学習者からの学費であり、士林社区大学では7割以上にのぼる。学費は1単位1,000元であり¹⁵⁾、その他、冷房費、保険料など各200元が徴収されるが、65歳以上の高齢者や原住民、新移民¹⁶⁾、心身障害者に加え、士林社区大学では同時に3講座を履修した学習者や、夫婦、親子3代で通う学習者、54時間以上のボランティアをした学習者などに対して1～5割の減額措置をとっている。次に教育部（日本の文部科学省に相当）、台北市政府教育局からの補助金がある。教育局は「専案講座」（3.Bにて後述）に対して、1講座につき1万円の補助金を支給しているため、学習者は「専案講座」には半額の学費で参加できる。その他、毎年異なる公的部門や社区組織からの収入や寄付がある。

支出は職員給与と教師給与が全体の約6割を占める。教師の給与は1時間一律800元であるが、講座の学習者が講座開講基準である20人以下であった場合は時給が減額となるが、逆に20人をはるかに超える学習者数がある場合は上乗せされる。

3. 学習者・教員と開講講座の特徴

A. 学習者と教師の概要

2014年第1学期の士林社区大学の学習者を、性別、年齢層、居住地、職業別に示すと表3のようになる。每学期3,000人弱の学習者があつまり、男女比は3:7である。主に40代から70代の学習者が多く、高齢化にともない、65歳以上の学習者数が近年増加しているという。学習者の居住地は士林社区大学がおかれている士林区がもっとも多く、約4割を占める。隣接する北投区、新北市から通う住民も多く、自宅は士林区ではないが職場が士林区にあるため、退社後通学する

表1 士林社区大学2013年度の収入内訳

収入源	項目	金額	比率
学習者	学費及び申請費、冷房費など	17,071,520	74.60%
	委託経費	2,000,000	
教育局	専属性講座補助	150,000	10.92%
	評価監督(甲等)奨励金	200,000	
	「学習型都市」促進計画	150,000	
教育部	補助・奨励経費	3,145,000	13.74%
政風処	社区行動劇場ワークショップ	75,000	0.33%
客家委員会	客家風情話講座	21,000	0.09%
証券先物取引 発展基金会	金融知識講座	16,000	0.07%
社区大学 全国促進会	健康講座、自然生態人文講座	4,000	0.02%
その他	寄付、利子など	52,438	0.23%
合計		22,884,958	100.00%

出典：『台北市士林社区大学103年度自評報告』2014, pp.3-4より作成。

表2 士林社区大学2013年度の支出内訳

支出項目	金額	比率
職員給与	6,620,810	29.08%
教師給与	6,388,021	28.06%
施設租借費	1,000,000	4.39%
専案支出	6,283,517	27.60%
業務費用	318,042	1.40%
事務費用	366,151	1.60%
マーケティング費用	114,435	0.50%
設備費	1,280,843	5.63%
その他	396,468	1.74%
合計	22,768,287	100.00%

出典：『台北市士林社区大学103年度自評報告』2014, p.4より作成。

学習者も多い。

社区大学は、専属教師を雇わず、特別な知識や技能を有している人材を教師として招いている。士林社区大学の教師採用は「士林社区大学教師招聘採用辦法」の規定を根拠としており、教師採用と審査は「課程・招聘委員会」によって行われている。教師募集は主に、ホームページを通じて行われ、採用条件は、学術課程の教師であれば、その専門知識と成人への教育経験が5年以上の者、生活芸能課程の教師であればその専門技術を有する教学経験3年以上の者、外国語講座の教師であれば、国内外の大学院を終了している者、外国人であれば中国語を話せることなどである。社区大学で講座の開講を希望する者は、この条件を満たし、教学計画やこれまでの経歴、自己推薦書などを士林社区大学に提出し、その後「課程・招聘委員会」で審査にかけられ、合格すると士林社区大学の教師として講座を開くことができる。2014年度は113人の教師によって、135種類の講座が開かれた。

教師は、各自で専門の知識や技能向上のための研修に参加するほか、社区大学内部で行われる教学の質向上のための研修への参加が奨励されている。士林社区大学は、教学年数が長い教師や大学の教員などを招き、例えば、「教師教学検討会」、「教案執筆研修会」、「教

表3 士林社区大学2014年第1学期学習者基本情報

性別	男	女	合計			
人数	832	2,117	2,949			
比率	28%	72%	100%			
年齢層	18~30	31~40	41~50	51~60	61~70	71~
人数	175	354	661	1085	586	88
比例	6%	12%	22%	37%	20%	3%
居住区 (上位5位)	士林区	新北市	北投区	大同区	中山区	
人数	1183	554	474	125	121	
比率	40%	19%	17%	4%	4%	
職業分類 (上位5位)	工商業	専業主婦	サービス業	退職	公務員	
人数	446	440	276	238	148	
比率	16%	15%	9%	8%	5%	

出典：『台北市士林社区大学103年度自評報告』2014, pp.6-7より作成。

学専門成長ワークショップ」、「優良講座の教学観察会」などを毎年開催している。さらに、近年、教師たちが連携をとり教学の質を高めていくことができるよう、教師たちによる自主的な勉強会グループの成立が奨励されている。士林社区大学では「教師による自主的団体成立の奨励のための実施要点」を定め、グループを結成し申請すれば、会議の場所や簡易的な食事提供などが受けられるような制度をつくっている。現在成立している教師団体は、「国楽団（中華古典楽器の演奏楽団）」の教師5人とパソコン講座の教師3人からなる組織の2つがある。現在こうした組織は多くはないが、奨励する体制を整えることで、今後同領域の講座の教師たちによるさらなる結束が期待されている。

B. 講座の計画方法と「学群」の設定

台北市社区大学の講座には「一般講座」と「専案講座」の2種類がある。一般講座は学術課程、社団活動課程、生活芸能課程の3課程に分けられ、内容は、社区大学の教学目標や社区の文化に即しているもの、普遍的価値や科学原理、道徳倫理に適しているものと定められている。台北市社区大学の一般講座は、2010年から、学術課程は人文学類、社会科学類、自然科学類の3種類、社団活動課程は公共性社団類と非公共性社団類の2種類、生活芸能課程は情報科学技術類、国際言語類、美術工芸類、演奏芸術類、影像視覚類、運動舞蹈類、養生保健類、生活応用類、割烹美食類、投資財テク類の10種類、合わせて3課程15種類に分類されている。専案講座とは学術課程と社団活動課程に属する、「市政府の宣伝に協力し、民衆の公民的素質を育成することを目的とする」講座のことであり、例えば、公民的素質、環境生態、多元文化、社会的弱者への関心、社区の発展、ボランティアの育成、市政建設などをあつかう講座がこれにあたる¹⁷⁾。

士林社区大学の一般講座も、上述通り3課程15種類

に分類されるが、2009年から独自にすべての一般講座を「舞動活力学群」,「人文芸術学群」,「自然環境学群」,「国際語文学群」,「パソコン情報学群」の「5学群」に分類しており、学習者に配る講座一覧のパンフレットも、この分類をもとに表示されている。例えば、「舞動活力学群」には、ヨガ、ダンス、太極拳、気功など、「人文芸術学群」には書道、絵画、音楽系の講座、「自然環境学群」には陽明山の自然生態や湿地保護、漢方などの東洋医学、「国際語文学群」には英語、日本語、韓国語、手話、「パソコン情報学群」にはパソコン入門やデジタルカメラや撮影機器の操作などの講座が含まれる。先に述べた台北市社区大学統一の15種類の分類は、学習者が講座を容易に検索できるように配慮した分類であるが、独自の「5学群」の分類は、講座の今後の発展を配慮したものであるという。この分類方法は、個々の講座を大きな領域によって提示しているということであり、これによって講座を一定の領域に偏らずにバランスよく開催できるようにしているという。「教学研究発展委員会」の教師会議もこの「5学群」別から教師を召集しており、講座の発展が均衡に行えるようなしくみをつくっているのである。

士林社区大学の専案講座は、例えば、自然環境をあつかう「八芝蘭自然微旅行：生態観察と記録」講座や、生活美学の向上と社区参加を行う「茶道芸術：人文美

芸敬老ボランティア育成」のような講座がある。こうした講座の計画は、社区執行秘書が中心となり、これらを開講できる教師を招いて会議を開き、計画されている。先に述べたように、専案講座は教育局から1講座につき1万円の補助金を受けることができるしくみがあるが、各社区大学は1学期10講座までの申請が許されている。士林社区大学では毎学期およそ8講座が専案講座として開講されている¹⁸⁾。

講座の開講方法に関して、台北市すべての社区大学は、まず各社区大学内で会議を行い開講講座を決定し、開講講座の内容を教育局へ送り、教育局の審査を通過して初めて学習者募集をすることができる。士林社区大学では「課程・招聘審査委員会」が、まず学習者へアンケートを行い、これをもとに学習者の学習需要を把握し、「5学群」の教師を集め教師会議を行い、開講予定講座を決定する。開講予定講座をすべて配列したカリキュラム表を作成した後、再び「課程・招聘審査委員会」の会議にかけ確認し、「一般講座」と「専案講座」に分けられ、その後教育局の審査に送られるしくみになっている¹⁹⁾。

表4は2014年度開講講座の課程別講座数と比率、表5は、2014年度の人気講座と学習者数、連続開講学期数である。

学術課程、社団活動課程、生活芸能課程の開講比率

表4 2014年度講座開講数および比率

	第1学期	第2学期
	開講講座数(比率)	開講講座数(比率)
学術課程	48(36%)	48(37%)
社団活動課程	10(7%)	13(10%)
生活芸能課程	77(57%)	70(53%)
合計開講講座数	135	131

出典：『台北市士林社区大学103年度自評報告』2014, p.2より作成。

表5 2014年度人気講座と学習者数、連続開講数

講座名	学習者数	連続開講学期数
撮影芸術とテクニック(初級下)	106	26期
デジタル単眼レフの撮影テクニック	中級上	82
	高級上	70
	高級下	65
社交ダンス	チャチャ・ルンバ	64
	タンゴ・ジルバ・ワルツ	63
投資理論と実務	57	9期
543投資全攻略	55	8期
士林社区大学国楽団	55	15期
カラオケ(B班)	50	19期

出典：『台北市士林社区大学103年度自評報告』2014, p.11より作成。

は、ほぼ3:1:6であり、生活芸能課程の開講率が最も高い。台湾全土の社区大学で同様の傾向が見られる。人気講座は、撮影技術やダンス、投資、カラオケなどであり、生活に活用できる内容や、運動、音楽などストレスフルな生活を送るための講座が多い。士林社区大学の1講座の開講人数規定は20人であるが、学習者が必ず20人集まらなければ開講できないというわけではなく、10数人が集まっていた場合、まず教師に開講するか否かを相談し、教師の意向をもとに社区大学が開講か否かを決定する。

C. 社団の成立と奨励

社団活動課程は、現在士林社区大学では公共性社団類と学習者が組織する一般社団類、各7つずつ成立している。表6は2013年度の社団の名称と学習者数である。

社団は積極的に社区に出て活動を行うことが期待されており、実際に「湿地保護生育ボランティア社」は士林区内にある湿地の保護管理、「茶道芸術社」は敬老院への慰問活動、「崇徳公民劇団」は小学校で行動演劇の披露などを行っている。士林社区大学では、講座だけでは組織性に欠けるという理由から、安定的に社区で活動を行えるよう社団をつくることを奨励しており、独自に「社団成立辦法」や「社団奨励辦法」を設定している。そして、社団活動の活性化を促すため、2010年より毎年「社団評価」を行っている。この制度は、社団の組織、定期活動、社区への貢献、活動の創造性、校務への参加状況を、社団事務や公共事務の専門家3~5名が評価し、その内容によって奨励金を支給するというものである。しかし、このしくみの重点は、社団の活動内容に優劣をつけたり、活動回数を競わせたりすることではなく、さらに活発な活動をしてもらうために、各社団が行った活動を労うことにあるという。

4. 講座から社区活動への発展へ

社区大学は、社区という名称がついている通り、社区の特色を反映した講座の開講や、社区組織と連携した学習活動を行っている。また、公民としての質の向上という目的から、公共部門から講師を招き講演を開催するなど、さまざまな分野、方法による学習活動が行われている。士林社区大学で行われている特色ある学習活動の種類と内容をまとめると以下のようになる。

A. 士林区の特色を生かした講座から「士林学」の成立へ

士林社区大学の講座は、陽明山や湿地など士林区の特色ともいえる自然生態環境を題材にしたものが多く開講されている。例えば、陽明山の火山や温泉、古道、集落などの理解を深める「陽明山国家公園体験」、士林区の湿地や植物、鳥類などの生態環境を理解する「士林自然生態と風情」、外雙溪公園の湿地保護と管理を行う「湿地保護育成ボランティア訓練」、陽明山の平等里にある「菜菜子農場」で有機農法による農業を行う「楽しい休日農業」などの講座が開催されている。湿地保護生育の講座では、学習者は、湿地の生態環境や水生生物の栽培管理、湿地の管理保護方法を学び、実際の湿地で保護活動を行っている²⁰⁾。これをきっかけに、士林社区大学は2009年から湿地保護事業を台北市政府に委託され、学内に「湿地保護生育ボランティア社」を成立し、長期的にこの事業に取り組んでいる。また、士林区にある故宮博物院や天文科学教育館などの教育機関に携わっている教師を招き、「走入故宮(故宮に入って)」、「天文観測：星空の美しさ」などの講座のほか、ワークショップ形式による「台北生命の水脈：基隆河調査ワークショップ」、「芝山岩人文自然と文化古蹟ワークショップ」なども開催している。

表6 2013年度社団の種類と学習者数

分類	社区大学設置の公共性社団(人数)	学習者が組織する一般社団(人数)
名称	校務ボランティア社(45)	PPGIS撮影クラブ(20)
	湿地保護生育ボランティア社(42)	生活園芸研究社(36)
	茶道芸術社(45)	デジタル映像加工社(21)
	国楽社(56)	ウクレレ美楽社(20)
	崇徳公民劇団(15)	淡彩美学社(44)
	父母成長親子国学研究社(27)	舞動活力社(20)
	書道芸術社(28)	心嚮自然社(35)
学習者合計	約250人	約200人

出典：『台北市士林社区大学102年度自評報告』2013, p.9より作成。

こうした士林区の資源を活用した特色的な講座を発展させ、「士林学」を構築しようという取り組みがある。「士林学」とは、地方学のことであり、住民の士林の自然生態、都市発展などに対する関心と意識を高め、士林の文化的特色を発展させていくことを目的とするものである。住民の社区への理解があつてこそ、住み良い社区づくりと未来づくりができるという考えのもと、士林社区大学が住民の社区学習の拠点になり、士林区の在地文化の発展を進めていこうという取り組みである。「士林学」を深めていくにあたり、教師と学習者が社区内において、歴史や文化に詳しい地元の人々に聞き取り調査をおこなった記録をまとめた『士林学系列』冊子を定期的に発行している。例えば、これまでに『士林歴史散歩冊子：芝蘭新街』、『士林歴史散歩冊子：走読基隆河』、『士林歴史散歩冊子：走読平等里』、『葫蘆・社子・曼哈頓 社子調査300年』、『人文自然と文化冊子：芝山岩伝奇』が出版されており、士林夜市近辺の歴史と景観、基隆河の生態環境、陽明山の平等里の生活文化、社子島の地形や成り立ちなどをまとめ、住民の士林区への理解を深めてもらいながら、社区知識の構築を目指している。

B. 社区組織との連携による活動

士林社区大学は士林区にある里や、社区づくりを行う組織である社区発展協会と協力関係を築いており、学習者や教師はそうした社区に出て行き学習活動を繰り広げている。例えば、絵画を学ぶ「山水画の創作と鑑賞」、「花鳥鉛筆画」、「スケッチ画」、「色鉛筆デッサン」講座などの学習者と教師は、士林区福佳里と福佳社区発展協会が行っている緑地と雙溪河岸の美化活動に協力し、福佳里の橋に絵を描き、環境美化を向上する活動に参加した。これは、アートによる環境美化活動を通して社区環境を知り、社区への関心を高めるといった目的のもと行われたものである²¹⁾。ここで連携している里は、「士林社区教育推進会議」のメンバーとなっている里でもあり、社区大学と里が一緒に事業を行うような協力体制が築かれているといえる。

また、社区内のイベントなどにも積極的に参加している。例えば、水源の理解やエコ概念提唱を目的とした、2003年から続く草山生態文史聯盟主催の「士林天母水道祭」、士林区役所主催の士林区運動会や「士林国際文化祭り：草地音楽会と人口政策宣伝活動」、芝山国民小学校で行われた「芝山国民小学校楽齡学堂開幕式典」、福佳里の端午節、重陽節のイベントなどにも学習者や教師、職員らが参加している。社団も定期

的に社区でイベントを開催したり、社区イベントに協力したりしている。例えば、「国楽社」は天母や後港里で演奏会を開催したり、「書道芸術社」は書道展を、「茶道芸術社」は「社区奉茶日」を開催し社区にお茶をふるまう活動などを行ったりしている。

このように、社区の公的機関や、社区発展協会などの社区組織とのつながりを構築し、学習活動の範囲を広げていっているのである。

C. 公共的な課題への関心向上のためのとりくみ

社区大学は、公共的な課題に取り組み、住民の「公民」としての資質の向上を行うこと、また社区や社会でおきている問題を解決していくことも重要な役割とされている。そのため、「士林学」の領域にも含まれるような自然生態保護をテーマとする講座のほかにも、高齢者、マイノリティー、正義などをテーマとした講座を開講しており、学習者の視野、関心の拡大をはかっている。

学期の第9週目に行われる公民週では、公共部門から講師を招き、公共的な課題をあつかう講座を中心に開講している。例えば、消防局による「救急技能訓練」、「火災の予防」、地政局による「私有三七五借地耕地問題」²²⁾、税捐稽徴（税収入の意）処による「節税大放送、統一レシートの宣伝」、動産質借処による「公営質屋の特徴」、労働保健局による「最低賃金の拒絶：労働権の權益を守る」、都市更新処による「社区大小事：ビデオでストーリーを語る」など、数多くの公共議題をテーマにした講演を毎学期開催している。また、「社区行動劇場演劇」の講座と、公共性社団である「崇徳公民劇団」は、台北市政府政風処の宣伝活動に合わせて、「廉能政府（汚職のない政府の意）と倫理社会」をテーマにした行動演劇を行っている。「崇徳公民劇団」は、社区大学の学習者と基金会がもつ劇団の劇団員から構成されており、百齡国民小学校など社区大学の外部において「透明な行政」などをテーマにした行動演劇を行っている。その他、高齢化、心身障害者、原住民、新移民、外国人など、一般とは異なる需要をもつ層を対象にした講座や活動も行われている。例えば、高齢者への福祉サービスを活動の主とする華山社会福利慈善事業基金会との共催による「華山基金会と本校手作り石けんワークショップ」の開催、手話を学ぶ「静寂の言語」講座、家庭教育センター²³⁾による「高リスク家庭認識：通報とサービス内容」講演会、客家委員会との協力による「客家語入門」講座、原住民族委員会との協力による「レンズの中の「原」

世界」講座、外国人を対象にした「阿豆仔（台湾語で外国人を意味する）経典学習」講座などが開かれ、日常生活や台湾社会への適応に支援が必要な層を対象とした講座を開催し、興味があれば誰でも参加できるようになっている。

このように、公共部門や民間部門と連携した講座やワークショップを行い、公民としての資質を高めるための公共的な課題の学習活動を行っている。

5. おわりに

A. 士林社区大学の特徴と課題

士林社区大学の特徴として以下の3つが挙げられる。1つ目に、「5学群」の形成によってすべての講座を分類し、講座の種類を偏りなく設置できるようにしてあることである。つまり、民衆からの需要が最も多い生活芸能課程の講座の種類を充実させ、多くの人々を引きつけ、社区大学に来てもらうようにしているのである。学習者、つまり社区大学への参加者がいなければ、あらゆる講座、活動は開催することができない。そのため、まずは多くの学習者に社区大学に来てもらえるよう、社区大学の基礎とも言える講座の内容を充実させているのである。

2つ目に、「士林社区教育推進会議（以下、促進会議）」を校務発展委員会の会議に代え、社区組織の意見を校務の運営に反映できるようにしていることである。「課程・招聘委員会」においても社区代表を1～2名召集し、講座に社区側の意見を取り込めるようにしているが、ほぼ社区から集めた人々をメンバーとする促進会議を校務の重要な会議にすることで社区を舞台とした活動の計画を行いやすくしているのである。つまり、課程・招聘委員会は社区大学内部の講座を計画する際に社区人材を取り入れるという形であるが、促進会議は社区内での活動に社区大学の存在を取り入れるという形である。このように講座の計画と社区活動の計画を担う委員会の機能を分散させることで、多くの社区活動を計画し、学習者が社区内において学習できる機会を増やしているのであり、結果、社区大学と社区との関連性を強めることにつながっていると見える。

3つ目に「社団評選制度」があることである。すべての社区大学にこの制度があるわけではなく、士林社区大学は社団の活性化を促進するためにこの制度を置いている。近年、士林社区大学に限らず台北市の社区大学は、「講座の社団化」、つまり一般講座を社団へと発展させることが奨励されている。これは、講座で学

んだ学習者が社団を自ら運営し、学習を次のステップへと進めるため、そしてその学習者らの学習活動を校内に限らず社区内へと広げていくという目的がある。士林社区大学は社団を成立させることに対して、これは「目的ではなく、講座が社区活動を組織的に行えるようにするためのひとつの手段」であると考えており、「社団評選」によって活動を労い、活動の活性化に努めているのである。

また、現在の士林社区大学の課題として、以下が挙げられる。まず、講座のさらなる発展である。現在、「5学群」の領域からバランスよく講座を設置することに努めているが、学習者の興味や学習動機に偏りがあり、各学群の発展が均衡にできないという問題がある。加えて、1つの講座は学術課程、社団活動課程、生活芸能課程の3課程のうち、1つにしか属することができず、様々な切り口から扱える講座を1つの課程内にしか置くことができないという制約があるため、各学群間、あるいは各課程間の連携をはかることや系統化することが困難であるという。これを解決するための方法として、講座の質を向上することと、学習者の視野の拡大を促すことで対応している。例えば、質の向上で言えば、教師間の交流連携や、不足している分野の教師を採用すること、学習者の視野の拡大で言えば、公民週の内容の強化や社区課題に取り組む活動を充実化し、さまざまな講座への参加を促すことなどである。

2つ目に、高齢者やマイノリティーなど特別な支援を必要とする層への需要にさらに応えることである。社区大学に社区学習サービスセンターがおかれたことは、社区大学が社区の中心となり社区学習を進展させていくことを意味しており、社区大学は内部だけでなく社区全体に目を配る必要があることを示唆している。今後は特に、社区大学に通うことのできない高齢者やその他マイノリティーの需要に応えられるよう、社区大学内部に留まらず、社区大学の外に出て彼らにアプローチしていく必要があるとされている。そのためには、校外の教学点の設置や、社区発展協会などの社区組織との協力関係を強化する必要がある。

3つ目に、社区にある組織との協力関係を一層強化し、多様な形で社区を中心とした学習活動を開催していくことである。社区大学はその名の通り社区にある学校であり、講座も社区の特色にあったものを積極的に設置している。現在は、社区大学内に社区の団体や、教師を呼び講座を開講してもらったり、社区に出かけて行きそこを学習の場としたりしている。こうしたやり取りをきっかけにして、今後は社区の課題をすくい

あげ、社区の課題を題材にした講座を開講し、再び社区活動によって学習成果を還元するという循環を生み出すことを目指している。

B. 士林社区大学の公民社会形成へのアプローチ方法

黄武雄ら社区大学提唱者たちの理想は、公民社会を実現するために、学術課程において理論的な知識を学び批判思考能力を育て、実践として社团活動課程で公共政策などの公共的な課題に影響を与える学習活動を行うことを、社区大学の重要な目的としていた。しかし、実際に学習者が良好な反応を示したのは、個人の趣味や関心ごとを学ぶことのできる生活芸能課程の講座であり、提唱者らの期待とは裏腹に、生活芸能を学ぶ講座が大きく発展していった。そして、この実態は理念とかけ離れていると幾度となく批判されてきた。それでは、現在、趣味なども学べる生涯学習機構としての性質を強く帯びた社区大学は、理念の実現に向けてどのように取り組んでいるのか。本稿で分析したように、士林社区大学の組織や学習活動の内容からわかることは、もともとの構想とは異なる方法によって、理念の実現にアプローチしようとしているということである。

士林社区大学では、あらゆる講座を「5学群」に分類し、内容に偏りがないように講座を設置するしくみをとっている。これを基準に、バランスの良い講座設計を行うことに努め、特に開講割合の高い生活芸能課程がより豊富な内容になるように配慮している。多様な講座が開講されれば、より多くの学習者が社区大学に足を運ぶようになり、そして継続的に学習を積み重ねていった学習者が自ら社团を形成するという現象も起こっている。そして、それをスムーズにできるように支援する制度である「社团奨励辦法」や「社团評選制度」も制定している。社团は、学校内のイベントのみならず、社区において活動を行うことが奨励されており、例えば、茶道や演劇の社团のように、新しい学習者が比較的多い講座とともに社区に出かけ、社区大学内にとどまらない活動を繰り広げるようになっていく。また、促進会議によって社区との協力関係を強化することによって、絵画講座のように社区内において活動を行うようになっていくものもある。日頃から、社区の特徴的な資源を用いた講座や、公共部門などとの連携によって行われる講座、講演なども定期的に開催し、学習者に公共的な課題にも関心を持ってもらえるよう、積極的に宣伝している。

以上のように、まず生活芸能課程において学習者個

人の興味関心、学習意欲を満たすところから始まり、そこで学習者が学習を楽しみ、人間関係を形成していく、そして社团を形成したり、学習の舞台を社区へと拡大したりするなど、徐々に学習活動の範囲を拡大していくという流れを見ることができるのである。つまり、従来の構想のような、学術課程と社团活動課程に重点をおくことによって公民社会を形成するというルートではなく、生活芸能課程を重視することによって学習者が満足しながら豊かな学びを積み重ね、その結果、公民社会を形成していくことにつながるようなアプローチ方法がとられていると考えられるであろう。

注

- 1) 「社区」とは「community」の中国語訳であり、「地域」と訳すこともできるが、本稿では混乱を避けるため、文中において地域をさす場合も「社区」という用語に統一している。
- 2) 「公民社会」とは「civil society」の中国語訳であり、日本語の「市民社会」にあたる。本稿では、混乱を防ぐため、台湾で使用されている「公民社会」という用語をそのまま使用する。
- 3) 先住民族のことを指す。台湾では「原住民」と表記するため、そのまま使用する。
- 4) 黄武雄・顧忠華『成人的夏山：社区大学文献選輯』左岸文化、2004。
- 5) 社区大学全国促進会ホームページ<http://www.napcu.org.tw/index.html>（最終閲覧2015/08/25）。
- 6) ここで言う「課程」とは、大学の専門課程やコースのようなものではなく領域のことを指している。また、「社团」とは社会団体のことであり、サークル活動のイメージに近い。
- 7) 例えば、黄富順「台湾地区社区大学の発展與省思」『教育資料集刊』27、2002/12、林美和「社区大学課程與教学案例之分享與反思：以「台北市社区大学創新課程教学與學習經驗之師生案例」為分析場域」『台北市社区大学十年回顧與前瞻』台北市政府教育局、2008、pp.88-89。
- 8) 台北市は直轄市であり、行政組織は上部から、市-区-里-鄰となる。
- 9) 一度の入札で3年の運営が可能である。途中の運営に問題がなければ、運営権を2回延長することができるため、合計9年の運営が可能となる。委託団体の決定は、資格や団体が提出した社区大学運営の教学計画などの審査を経る。
- 10) <http://cd.fycd.org/modules/news2012A13/article.php?storyid=2>（最終閲覧2015/7/1）。
- 11) 「公民」とは「citizen」の中国語訳であり、一般的には現代の民主政治において特に選挙権と被選挙権を持ち、これを行使する権利と義務を担う身分を有した者のことと解釈される。こうした権利と義務概念に加えて、公民としての「意識」と「能力」を有していることも重視され、「公民としての質」と言う時、公共領域において討論などに参与し健全な社会を形成するための知識、能力、自覚のことを意味する。陳定銘『台湾社区大学的研究：公

- 民社会建構與終身學習政策的實踐』国立政治大学公共行政学科博士論文、2002。
- 12) 1994年に行政院文化建設委員会（現：文化局）によって開始された町づくり政策のことである。社区の景観美化や産業，社区を共同的に担う人々を育成し，社区の住民によって自らの居住環境をつく社区意識を高めることを目的とするものである。林振春「社区教育的發展」『社会教育專案』師大書苑，2011，pp.165-204。
 - 13) 「台北市社区大学自治条例」（2012/6制定）第5条には、「副校長」ではなく「主任秘書」を置くことあり，名称をこの規定に合わせているが，担当業務内容は他の社区大学の副校長と同等である。
 - 14) 「社区学習服務センター」とは，2010年から台北市政府が学習を核とした社会（学習都市）形成を目指した取り組みを開始したことに合わせ，教育局が設置したものである。機能としては，社区と連携して講座や活動を行っていた社区大学が，さらに社区組織との協力関係を構築し，文化の掘り起こし・保存・發展，環境美化，地域人材の育成などを社区一丸となって行っていくことを目指すものであり，運営は社区大学の行政職員らが行っている。12行政区すべてのセンターは各社区大学内におかれ，センターとして事務所内に会議スペースを設置しているところが多い。
 - 15) 1,000元は日本円で約3,000円である。また，単位として数えるのは，社区大学はもともと高等教育機関として構想されたことの名残りである。一般的に講座は19時から21時半までであり，1学期3単位とカウントされるため3,000元を徴収するものが多い。
 - 16) 新移民とは外国籍配偶者のことを指すが，東南アジア諸国からの花嫁が極めて多いため，多くは彼女たちのことを意味する。
 - 17) 「台北市社区大学課程開設要点」（2008年制定）。
 - 18) 教育局が專案講座1講座につき1万円の補助金を出しているのは，專案講座への学習者の参加率が低いことに起因する。補助金を出すことで学費を半額にし，学習者の参加を促している。（台北市政府教育局終身教育科楊碧雲専員への聞き取り調査（2015/8/22実施）による。）
 - 19) 教育局は，「台北市社区大学開設課程規範原則」（2003年制定）に基づいて，開講不可な講座がないか審査をする。この「原則」で，公序良俗に反する内容，法に触れる内容，鍼灸，整体，催眠，指圧，按摩などの医療行為，生命診断，風水，姓名判断などの占いや超能力に関する内容，施錠方法などの開講は禁止されている。
 - 20) 「台北市政府教育局学习型都市網電子報」第98期，2015/6/25。
 - 21) 「台北市政府教育局学习型都市網電子報」第86期，2014/12/25。
 - 22) 1949年に始まった土地改革制度のことであり，小作農の権利保障のために地主へ払う小作料を毎年総収穫量の37.5パーセントを上限にするというものである。
 - 23) 家庭教育センターとは，「家庭教育法」第7条に規定された，家庭教育を専門に行うセンターのことであり，直轄市や県市政府が設置し，教育，文化，衛生などの関連部局と協力して新移民家庭，原住民家庭，心身障害家庭，低所得家庭，一人親家庭などに対して教育・保護支援を行うセンターである。

（指導教員 牧野篤教授）